

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18300293

研究課題名（和文） 参加体験協同型のワークショップを
eラーニングで可能にするための統合的研究研究課題名（英文） An Integrated Study on E-Learning that enables Participatory
and Collaborative Workshop

研究代表者

向後 千春(KOGO, Chiharu)

早稲田大学・人間科学学術院・准教授

研究者番号：00186610

研究分野：教育工学

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学 / 教育工学

キーワード：eラーニング、ワークショップ、参加、体験、協同学習

1. 研究計画の概要

本研究は、参加体験型のグループ学習の形態で実施されるワークショップを、eラーニングによって可能にするための基礎的研究および実践的研究を行おうとするものである。

まず、基礎的な研究として明らかにしたいことは、集合して同時に数十人が参加して行うワークショップにおいて、どのようなコミュニケーション活動が行われ、それがどのように全体としての活動や意識に働きかけ、ワークショップ独特の盛り上がりと日常に戻ったときにも思い出されるような深い体験（アンカー体験）を生み出すのかというプロセスの全容である。

次に、実践的研究として行いたいことは、そうしたワークショップをeラーニングシステム上で実施するためのプログラムを開発し、実際に参加者に協力してもらいeラーニングワークショップを実施したときに、そこでどれだけのワークショップ的体験が実現できるかを検討することである。

2. 研究の進捗状況

(1) eラーニングをワークショップ的にする研究

一般的に孤独感が学習離脱の大きな原因となっているeラーニングに対して、どのようにすれば学習が促進、持続されるかという問題意識を持って、eラーニングをワークショップ的にする研究を進めた。その1つの工夫が、受講生と教員・メンターが個別に授業の感想や質問をやり取りできる「レビューシート」という機能である。これを実際にeラーニング授業で利用したものを評価した。

(2) ワークショップそのものの分析

eラーニングをワークショップ的にするためには、実際のワークショップの中で何が起きているかを観察し、分析しなくてはならない。ワークショップそのものが全体論的な立場で設計されているものであるため、それを細かいデータを取った上で全体的に何が起きているのかを検討しなければならない。これについては方法論的にも発展途上にあるものであるが、まずはパイロット的なデータを取って分析をし始めているところである。

(3) eラーニングとワークショップをブレンドする授業実践

これまでの研究で明らかになっていることは、eラーニングやワークショップの単体の授業よりも、それらを組み合わせたブレンド型授業の方がより効果的であるということである。eラーニングは知識教授中心のものであれば効率的ではあるが、それが行動レベルに至るまでにはなりにくい。一方ワークショップでは、体験や他者との交流をともなうため深い理解には至るが、時間や身体的なコストが高い。そこでこれらの両者を組み合わせたブレンド型授業の可能性に注目する。実際にブレンド型授業の実践を通じて、その実証的なデータを取りつつある。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

eラーニングとワークショップの研究それぞれについて順調に研究を進めている。また、その融合としてのブレンド型授業の研究も進展した。課題はワークショップをeラーニ

ング上で実現できるかという点である。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度となる 2009 年度は、ワークショップと eラーニングの双方の研究のバランスと総括を行いながら、ワークショップを eラーニングに活かすというゴールを目指して、研究を進めていく。

5. 代表的な研究成果

〔学会発表〕(計 4 件)

(1)向後千春(2008.10) ICT を活用した教育システムをどのように評価するか『日本教育工学会第 24 回全国大会講演論文集』Pp.85-86 (2008/10/11~13, 上越教育大学)

(2)向後千春(2008.9) eラーニングと教室授業のブレンド型授業の実践と評価『教育システム情報学会第 33 回全国大会講演論文集』pp.90-91 (2008/9/3~5, 熊本大学)

(3)筒井洋一・向後千春・青木将幸・中村恵子(2008.6) 授業方法としてのワークショップと e-learning の意義『大学教育学会第 30 回大会発表要旨集録』pp.48-49 (2008/6/7, 目白大学)

(4)向後千春(2006.11) 実質的な成果をもたらす eラーニングの条件『日本教育工学会第 22 回全国大会講演論文集』Pp.9-12 (2006/11/3~5, 関西大学)

〔その他〕

研究会発表(計 4 件)

(1)向後千春(2008.12) 閉じられた大学授業から持続可能な学習コミュニティへ『日本教育工学会研究報告集』JSET08-5 Pp.203-206

(2)向後千春・伊豆原久美子(2008.7) eラーニング授業における学生レビューシートの利用とその効果『日本教育工学会研究報告集』JSET08-3 Pp.81-88

(3)向後千春(2007.12) eラーニング授業でコミュニケーションカード「e 大福帳」を使う『日本教育工学会研究報告集』JSET07-5 Pp.297-300

(4)向後千春・伊豆原久美子・富永敦子(2007.3) 授業アンケートから「授業レビュー」の方法へ『日本教育工学会研究報告集』JSET07-1 Pp.171-176

ホームページ

<http://kogolab.jp/>

樣式 C-7-2

自己評價報告書